

いおろち  
画楼の  
三ツツリさん

下



うた=いぬ ゆね

# ミオリさんが、 であったのは...?

夢の名残が 流れ着く  
その果て どこかに、

へんてこ 絵描き  
その名を

ぽつんと描く 一心に  
指凍えさせ その奥に

おや、なにかな？

それが 画楼との  
擬似だけど 家族との  
はじまりの 出会いでした。

どこかすこし かわりもの  
みえず みゆものを 描くひと

その歩み 日々 どんなかな？



# -キャラズ-



← ミオリさん

おっとりした絵描き。  
創作物に常におかしな  
魔法が宿ってしまう。



← アウングさん

情熱的な色の精霊。  
芸術をこよなく愛し、  
画楼作りを思い立つ。



あと 113113







な  
?



















した。









11月3日  
画楼の  
ミオリさん





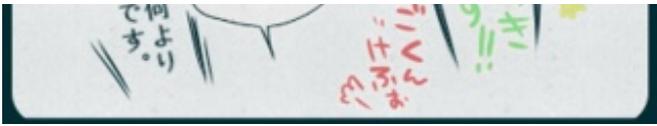














女の  
んが  
た

。

—+—









# ぎじかぞく

ある日のある街に  
絵描きのミオリさん  
暮らしていました。  
魔法作家になる  
ずっと前の日々



もしも何かちがったら  
どんな日々だった？

サメレくんや  
ヤウングさん

もしも知らぬまま  
紙の野だった？



様々な種族の  
ふしぎなかぞく  
のようですよ。

ともかく今は  
へんな画楼の子



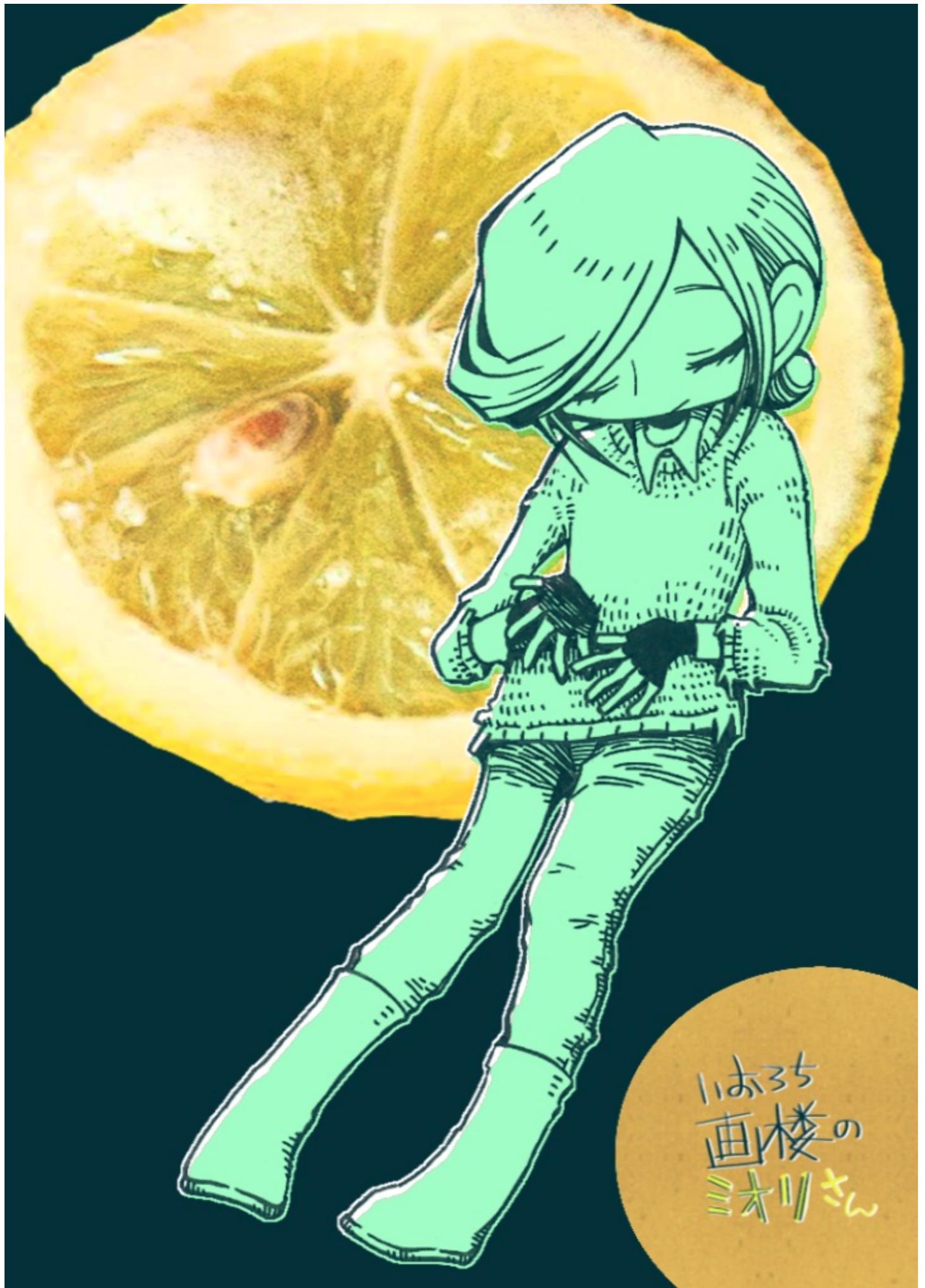
ある日の画楼  
どんな日々になっ  
ていくかな？





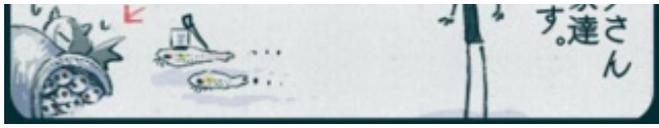






11月3日  
画楼の  
三木さん











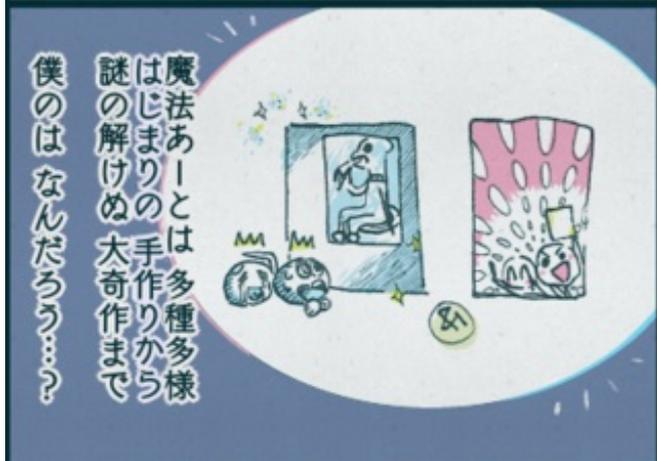












旅路の闇に  
ひらめきの灯りが  
それは眩しく暖かかったが  
それが何かは今も解らず  
絵のまとまり形の麗しさ  
そのむこうに魔法作家ず  
求め彷徨いとこまでか  
眩しくはかなくいとおいしい  
光を放つ謎の答えを  
ミオリさん考えています。

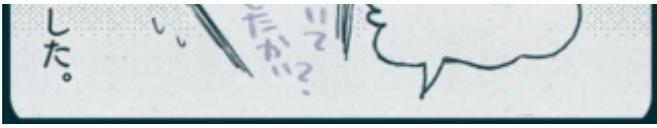




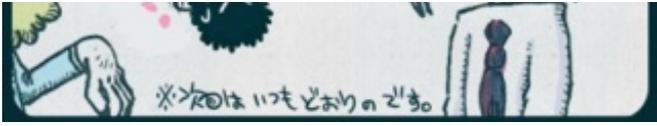








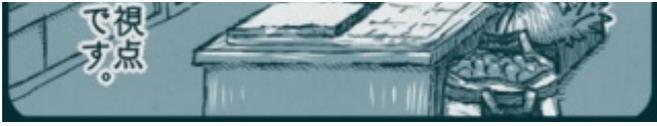






いお3ち  
画楼の  
ニオリさん





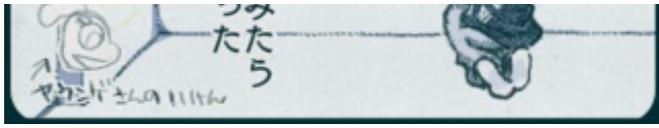








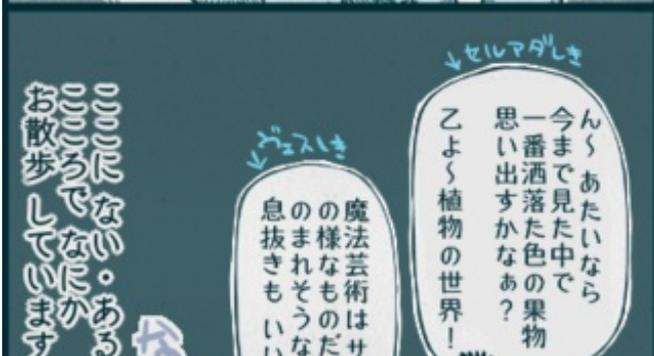








ミオリのとい







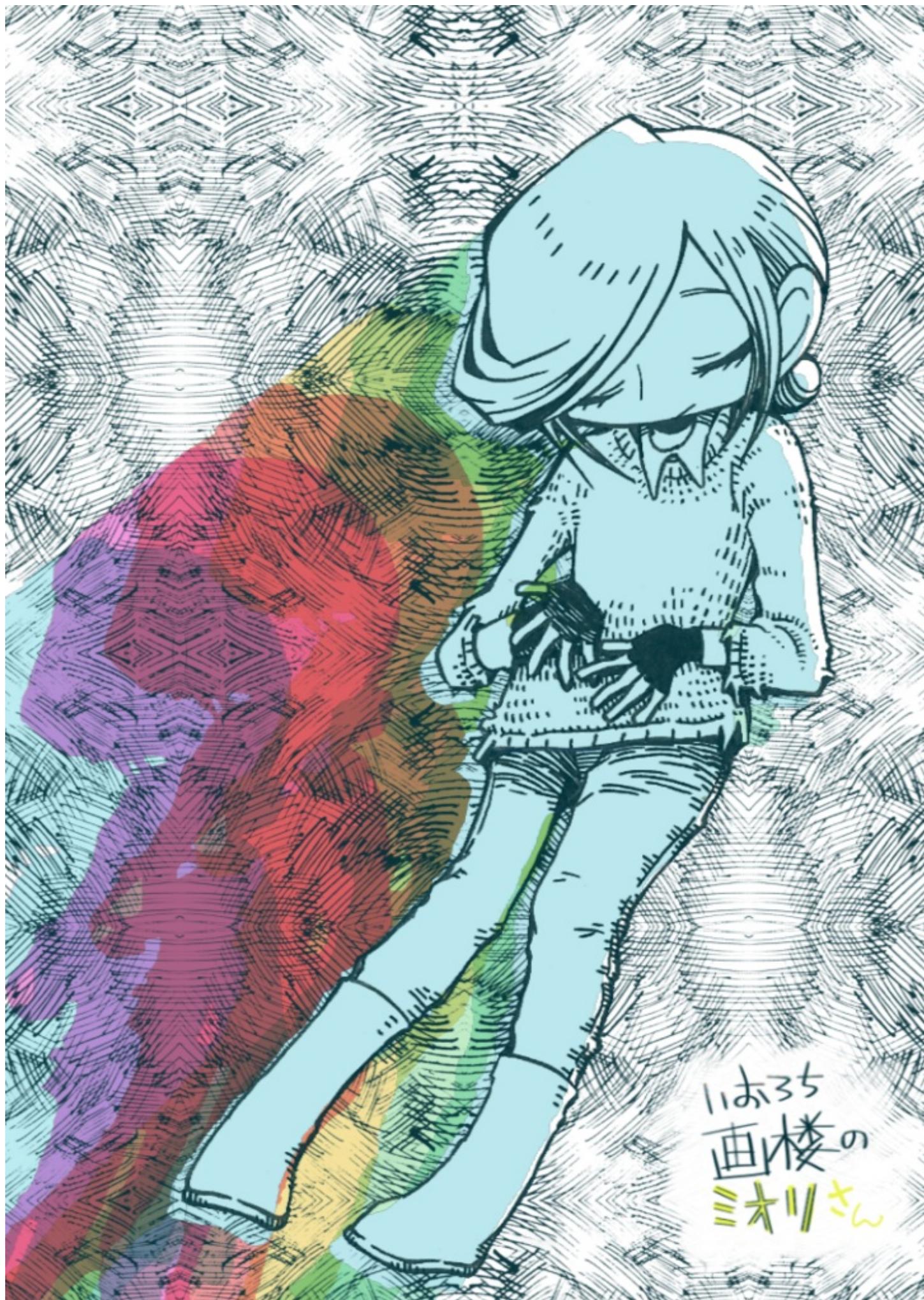












いお3ち  
画楼の  
三木さん















の  
ば  
失せ  
うて  
。

# ミオリとサメレ













# いずみにをり(☆)

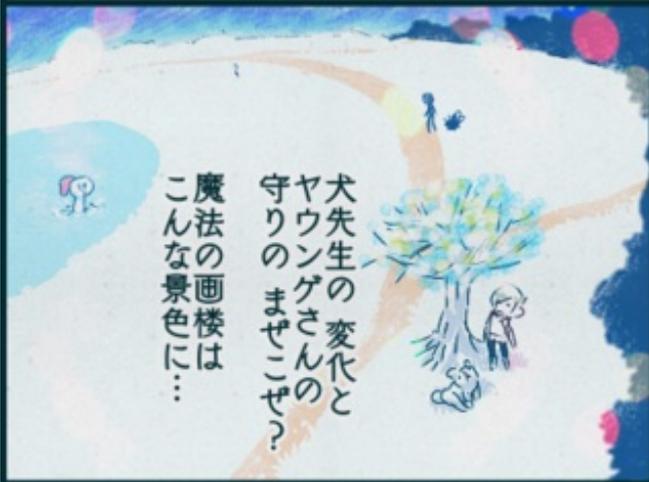


夢の魔法と、尽きぬ謎  
その作り手 犬先生は  
渾身の一作を食べ  
変化を残して  
またどこかへ  
彷徨い去って  
いきました。



新しい白い野に  
ヘンな枝植えてみた  
ミオリさん

しずかな空の下

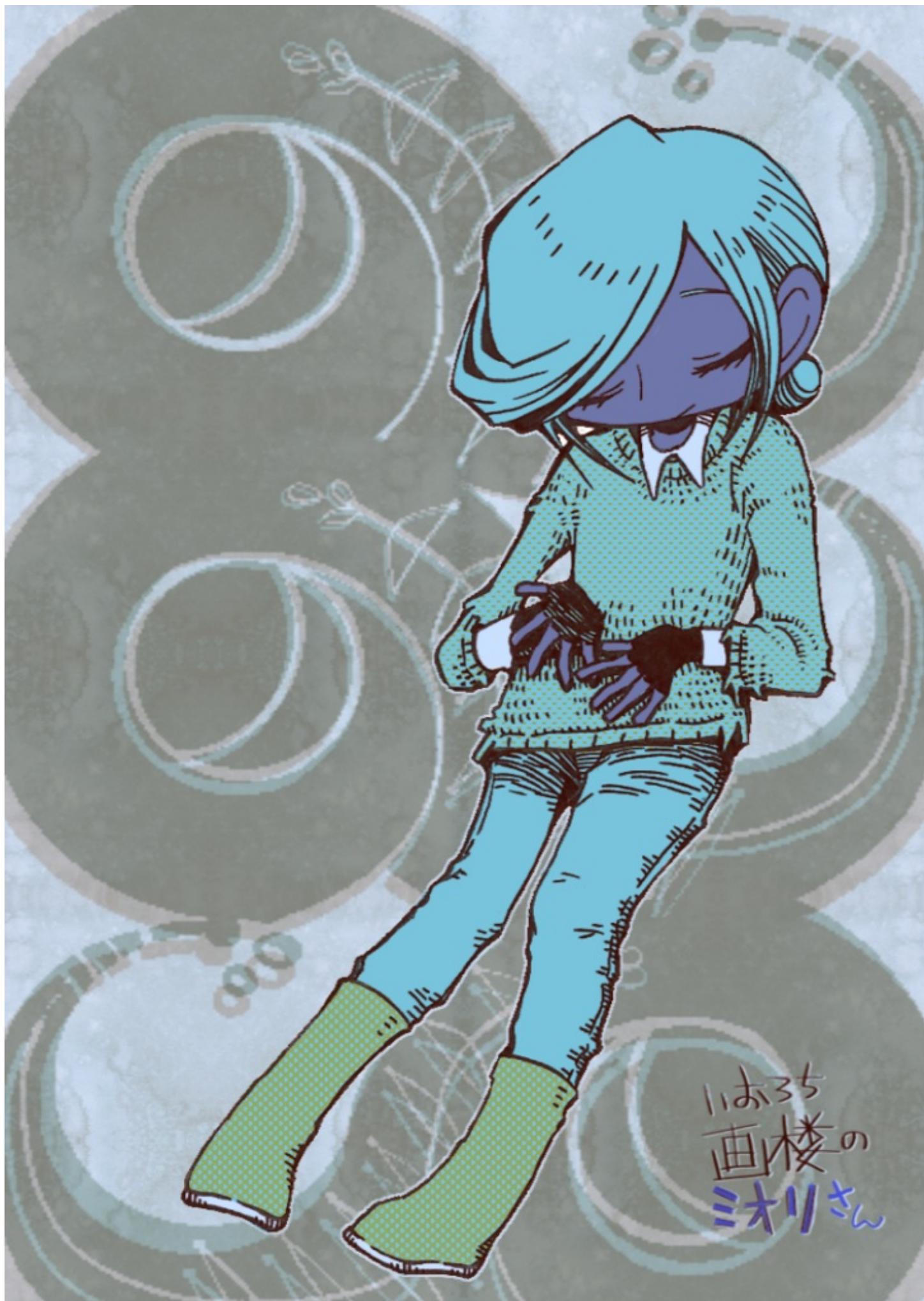


犬先生の変化と  
ヤウングさんの  
守りのまぜこぜ？  
魔法の画楼は  
こんな景色に…



半の中？ 遙かな遠く  
精霊の守る泉の星で  
魔法作家達の生活  
まだまだ続くようで





いあ3ち  
画楼の  
ミオリさん

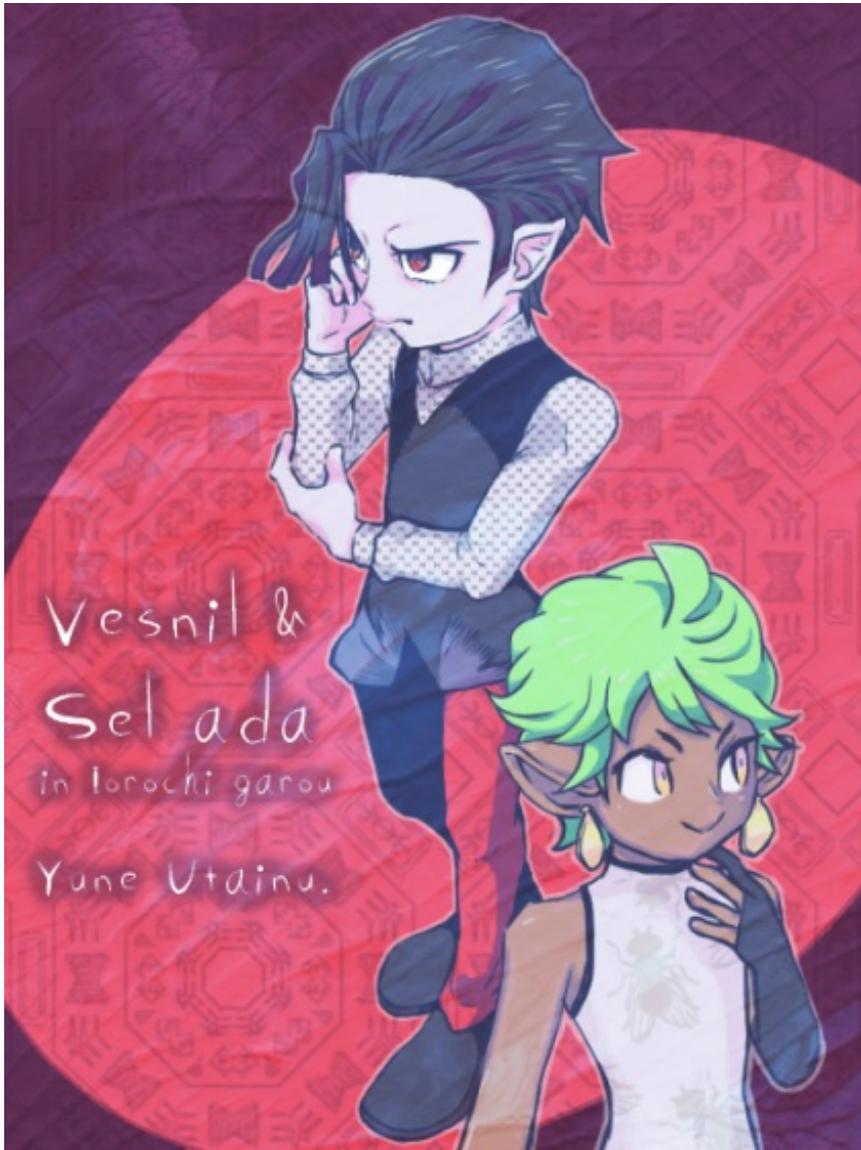
## おまけ1. またこんどっ記念絵

---



## おまけ2. ヴェスニルとセルアダ

---



ヴェスニルさんは、ヤドカリのような身体能力をもつ”魔物”さん。たまに殻が出現します。即興詩をつむぐオブジェを制作しています。むっつりと言われると照れつつ怒るよ。

セルアダさんは、雌雄ふりーだむな妖精さん。球体の姿は魔力的にエコです。どんな種族にも着られる服を作り出しますが、制作方法は妖精秘密。ヤウンゲさん大好き！

おふたりとも 画楼においては古株なほうで、ゲンキでなにかとお忙しい？色の精霊どのにかわり、頼られたり教えたりします。主人公より個性的？かつ、気のいいコンビです。

### おまけ3. サメレ

---



見た目より残忍だったり怪しく...はないですが、砂をあやつる”魔物”です。

夢の奥の闇の底あたりの魔物さんがたは魔力強い=偉い?に基づいて暮らしており、なかなか大変なようです。

サメレくんはいろんなものを失い ころろ枯れかけたときにミオリさんと彼の絵を見ました。絵から舞い上がる鳥たちが、なんだか ど真ん中希望ヒットしてしまったようです。今ではもう、みおりさんの前ではでれでれっのでれであります。

でも、ごかぞく以外からの評価と心のゆきかいに希望をみたのは、ミオリさんもかも、しれません。

だから、自身が砂にかわり 奇妙な世界中を彷徨い隔たっても、切れることはないみたい。サメレさんの歌に脱魂してとろけるファンがいるのは、ちょっとアレがソレですが...

## おまけ4. 画楼めんばー・とーきんぐ

---

1.

セルアダ (以下セ) : だぁーちょっと！一旦終わっちゃったんですけどー！！

ミオリ (以下ミ) : いやはや、いろいろありました。

ヴェスニル (以下ヴ) : ひとまずコーヒーでも...あれ、豆どこだ...

セ : 待てい！色々ナゾが残ってんのよ！

大体、犬先生って夢奥レジェンドが、どーして画楼へ？

ミ? : 理由は特にないのである。

ヴ : えっ どうしたミオリ？

ミ? : 私には変化と放浪の性質があるのでな。

同じ地におればヘンなカオスが溢れ、歩いた後には必ず変化が。

画楼は多種魔法混交の地、半永遠の命の戯れに 散歩して来たまでだよ。

ミ : お茶っ葉ならありました。いつのかわから...え、あれっ

犬先生 : やぁ絵描き君。その節はどうも。私も茶をもらおうか。ぬるめでな。

一同 : ひぎゃあああああっ！犬先生 (仮) だぁーっ！！

ミ : あ、はい。ぬるめですね 淹れて来ます。人数ひい、ふう、みい...

セ : 冷静ね アンタ...

ミ : いや、犬先生 毛並みの美しい 優しい方ですよ。

たまに謎の骨肉をかじったり 幾千の頭に増えたりしますし...

ぼくも旅寝をしていたとき、おいしい干し肉をいただきました。

ヴ : (だからその肉の 由来なんだってばッ！)

2.

水担当へび (以下水) : ヤウンゲさん、お体の調子 どう？

ヤウンゲさん (以下ヤ) : お～平気さ！皆まだボンヤリしてんのかな、初めてそれ聞かれた！

3.

サメレ（以下サ）：ぐふっ げほげほ...

ミ：あ、サメレくん。また 怪獣にかな？

サ：ミオリか。おお、ココかじられたわい。

ま～あれやこれと大変だったぜ...

ミ：おつかれさま。みかん、食べる？

ああ ころころ2匹とも、頭に登っちゃだめだよ。

サ：うん、みかんくれ。ていうか、また背伸びたな おまえさん...

ミ：だいじょうぶだよ。さあ、起きて。

サ：ミオリ...にへへっ

ヴ：クッ いいさ...俺には至高の貝殻がある.....

しまねこ：あ、貝のあにいが白黒くなってる。

## いおろち画楼のミオリさん 下

<http://p.booklog.jp/book/125448>

お読みくださり、ありがとうございました！  
はやいもので、ミオリさんも もう下巻です。  
でも、ミオリさんシリーズは、実はしばらく続きます。  
さて、これからは どんなかんじかな？

それではまた、そのときまで...  
(次回作まとめ本は多分、2019年6月あたりに up 予定です。)

著者：謡犬 ユネ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yuneutainu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/125448>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト